

神戸空港島におけるブルーカーボン創出プロジェクト

■プロジェクトの概要

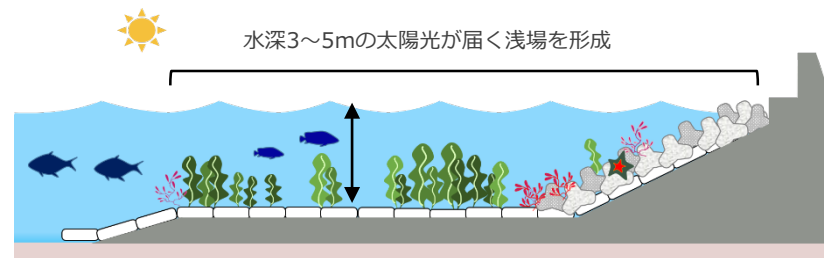
神戸市では、平成18年に開港した神戸空港島の造成に際して、周囲の護岸を緩やかな石積みとし、**太陽光が届く浅場を広範囲に構築**したほか、人工的な砂浜や磯浜などを配置することで、豊かな生態系の育成や環境の創造、市民が親しみやすい水辺空間の整備を進めてきました。また、緩傾斜護岸による生態系の育成・創造効果を把握するため、整備当初から**モニタリング調査を実施**しています。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

神戸空港島周辺では、延長約6.7kmにわたる大規模な浅場を人工的に構築したことで、多様な海洋生物が生息し、豊かな生態系が育成・創出しています。

周囲の浅場には、シダモクやワカメなどの**藻場が広範囲に繁茂**しているほか、メバルやスズメダイなど多くの魚類も確認されており、豊かな生態系を育む場となっています。また、一年を通して豊富な魚種が釣れる人気の釣り場にもなっており、**市民のレクリエーション空間としても寄与**しています。

本プロジェクトで得られる資金は、神戸港のカーボンニュートラルポート(CNP)形成や神戸空港の脱炭素化に向けた取り組みの一環として、**民間団体によるブルーカーボンの保全・創出活動に対する支援**などに活用していく計画です。



護岸の一部は釣り場として開放され、多くの人々が訪れています。



空港島内の人工海浜では、ウミガメの保護活動が行われました。

